

第51回日本血管外科学会学術総会

スポンサードセミナー2 (SS2)

# 下肢静脈瘤治療の最新エビデンス

日時：2023年**6月2日**(金) 11:10～11:50

会場：**第3会場** 京王プラザホテル 5F コンコードB

座長：**東 信良** 先生

(旭川医科大学 外科学講座 血管外科)

演者：**孟 真** 先生

(横浜南共済病院 心臓血管外科 循環器センター)

臨床使用から12年が経過した  
CAC治療の現在の位置付け

**今井 崇裕** 先生

(西の京病院 血管外科センター)

CAC治療の国内臨床データ  
～市販後調査の経験から～



スポンサードセミナーは事前予約制ではございません。  
当日、先着順でのご入場となります。

共催：

第51回日本血管外科学会学術総会

コヴィディエンジャパン株式会社

販売名：VenaSeal クロージャー システム 医療機器承認番号：23100BZX0011100  
© 2023 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。  
TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。



**Medtronic**

## シンポジウム 7 「下肢静脈瘤に対する血管内治療の最前線」

### 当院における下肢静脈瘤に対する CAC 術後 2 年間の治療成績

#### -CAC の国際的評価と国内における下肢静脈瘤治療の動向-

#### 2-year postoperative results of glue treatment for varicose veins in our hospital

○今井崇裕<sup>1</sup> 葛井 総太郎<sup>1</sup> 黒瀬満梨奈<sup>2</sup>

Takahiro Imai<sup>1</sup>, Katsui Soutaro<sup>1</sup>, Marina Kurose<sup>2</sup>

1. 西の京病院 血管外科

2. 西の京病院 看護部

1. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

2. Nursing Department, Nishinokyo Hospital

【はじめに】2011年に下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術が保険収載されて以降、下肢静脈瘤の治療はストリッピング術をはじめとした外科的治療から血管内治療が標準的になった。2014年の厚生労働省 NDB オープンデータでは、伏在静脈瘤の治療割合は血管内治療の割合は 55.9%、2020 年では 88%と激増した。また 2015 年アメリカでシアノアクリレート系接着材を用いた血管内塞栓術 (cyanoacrylate closure: CAC) が FDA で認可され、2019 年 12 月に日本国内で保険償還された。術後 5 年間の良好な長期成績と合併症発生率が報告されている。国内で本治療のガイドラインが発表されたが、2021 年の厚生労働省 NDB オープンデータでは、伏在静脈瘤の CAC による治療割合は 4.6%と国内ではいまだ高くはない。今回、血管内塞栓術後 2 年間の中期成績を報告する。

【対象】2020 年 1 月～2020 年 12 月の下肢静脈瘤手術 914 件の内、血管内塞栓術を施行した 85 件 130 肢(F:63/ M:22, 68.0±13.1)を対象とした。

【検討内容】治療成績は以下の 3 つを検討した。解剖学的検討は超音波で治療標的血管を評価した。臨床学的検討はビジュアルアナログスケール (VAS) を使用した術後疼痛、CEAP 分類および静脈臨床重症度スコア (VCSS) を使用した重症度、アバディーン静脈瘤質問票 (AVVQ) による QOL を評価。安全性は術後の有害事象とした。

【結果】解剖学的検討では大伏在静脈 (GSV)、小伏在静脈 (SSV) とも開存例は見られなかった。深部静脈合流部より閉塞断端が 5cm 以上 10cm 未満に定義された部分開存例は GSV で 6 例、SSV で 5 例に確認された。Kaplan-Meier Method による累積完全閉塞率は GSV: 94.2%、SSV: 72.2%であった。治療後の VAS は 0.6±0.8 であった。VCSS は 3.1±1.7 から、術後 30 日で 0.3±0.3 へ改善した (p<0.001)。AVVQ は 8.0±9.0 から、術後 30 日で 4.8±6.3 へ改善した (p=0.064)。有害事象は 12 例(14.1%)に見られた。内訳は遅発性アレルギー反応: 8 例(9.4%, 平均 17 日)、静脈炎: 2 例(2.3%, 平均 19 日)、EGIT: 1 例(1.2%, 9 日)、血腫からの出血: 1 例(1.2%, 19 日)であった。

**【考察】** GSV について完全閉塞例の術前血管径は平均 6.8mm, 部分開存例は平均 8.5mm, P= 0.002. SSV について完全閉塞例は平均 4.0mm, 部分開存例は平均 4.3mm, P=0.88 であった. 有害事象の発生率 14.1%と高いが, 2 週間以上続く合併症は見られなかった. 血管内塞栓術 1 年間の成績は概ね良好な結果が得られた.

**【結語】** ESVS など国際的なガイドラインで CAC のエビデンスレベルは高くはないが (Class IIa, Level A) , 今後は高い推奨度が予想される.